

4-2. 地域特性を生かした健診

保健福祉環境事務所の「就学前の気になるお子様の相談」での事例を紹介します。この相談には、保護者と保育園・幼稚園の先生が原則一緒に来ていただくようにしています。また、相談・診察には、保健師（助産師）、心理士、医師がそれぞれかかわります。

【症例7：相談を利用し、就学以降も支援を継続できた ADHD 児】

①気づきの経過

周産期異常なく、乳幼児期は、少しうるさい子程度にお母様は思っていたそうです。3歳2か月時保育園に入園しました。食事、排泄は自立していましたが、じっとしていることができず、部屋から出て動きまわる。思い通りにならないと誰でもかまわずたたくことがありました。言葉の発達遅れはなく、友達への関心は高いようでした。年中になっても、友達との行動が一緒にできない、多動がおさまらないため、保育園から相談を勧められました。4歳8か月で相談にみえ、行動観察では、2~3名の子どもとは仲良く遊ぶことができ、自分から働きかけもできていました。相談には保育士もみえていたので、保育園での問題点を直接聞くことができました。おもちゃの取り合い、自分のしたことを他児が注意するときにカッとなって、教室を出ることや、友達や小さい子を押す、たたく、物にあたりといった問題行動がありました。身体的にはアトピー性皮膚炎があり、ストレス時に髪をむちゃくちゃに搔くこともありました。相談にはお母様に保育士が毎回付き添ってみえていました。

②保護者や保育士へのアドバイス

自分中心の幼い面があり、注目を常に自分があびていないといけなく、感情コントロールが困難な子どもであることを医師は、お母様、保育士に伝えました。シンプルな指示の仕方、具体的な「めあて」を決めてお約束が守れたらシールなどのごほうびを与えるトークンシステム、褒め方などについて指導しました。心理士は、自傷、他傷時の対応法について指導し、周囲への理解を求め、個別の対応も考えるべきであることを伝えました。加配保育士の申請も保育園に伝え、担当課に手紙を書き、その後加配保育士がつくようになりました。トークンシステムはしばらくの間は有効でしたが、しだいに「僕のごほうびいらないもん。」とあって効果が薄れ、何をするにも失敗を恐れてしなくなるといった状況になりました。

③ 診断の場へのつなぎ

3回ほど相談にのりましたが、診断と今後の薬物療法、より頻回のアドバイスが必要と考え、保護者、保育士に専門医療機関受診を勧めました。相談担当医師の勤務する大学病院を受診し、ADHD と診断され、年長時から投薬治療も開始されました。保育園では、トークンシステムを工夫して継続することと、タイムアウトも行うように指導しました。投薬を開始してからは、集中や感情コントロールが以前よりもできるようになりましたが、日によってまだムラがありました。保育園と保護者の連携はとても良く、大学病院にも、お母様、

保育士と一緒に通院され、できる限りのことをされていました。知能検査は正常でした。

④ 就学へのつなぎ

年長の秋には、入学予定の小学校教諭に保育園を訪れていただき、お子様の状況を把握していただきました。保護者は、入学後、特別支援学級での支援を希望されました。入学後は、特別支援学級で過ごす時間が多いものの集団で過ごす授業もあります。親学級の保護者にも本児の状態は説明されています。1年生の夏休みには、ADHD 児の夏期治療プログラムにも参加し、1学期に学校では決してしようとしなかった活動にも参加できていました。その姿を見学した担任がびっくりしていました。夏期治療プログラムの前半は、思うようにならないと集団から飛び出していましたが、5分間タイムアウトにならなかつたら、そのつどシールをもらえ、コンピュータ学習時間と交換できるという個別プログラム導入によってかなりの時間集団への参加ができるようになりました。2学期は、運動会の練習にも参加できており、成長が見られます。

本例は、保育士が気づき、保護者に相談を勧め、保育園での支援と家庭との連携がうまくいったケースです。担当の保育士が常に親子を見守りながら、専門家による相談の場が定期的にあることがお母様の支えになっていました。なかなか難しいお子様ですが、うまく学校にもつなぐことができ、医療機関受診、診断、治療もスムーズにしている例です。適切なときに、適切な支援者、支援の場があることの重要性を感じます。

【症例8：相談を利用し、LDが疑われた例】

① 気づきの経過

周産期異常なく、発達は、有意語が18か月、2語文は3歳前にやっと出て、兄と比べると遅かったようですが、3歳時健診では問題なく経過していました。兄は小学校2年生でADHDとLDがあり、大学病院でフォローされています。お母様が直接相談を申し込まれて、4歳10か月時に「就学前の気になるお子様の相談」にみえました。お母様の主訴は、「聞き取りが苦手で、聞き返しが多し、ひらがながなかなか覚えられない」でした。

② 保護者へのアドバイス

幼稚園では特に問題なく、保育士は本児の問題には気づいていませんでした。相談の場での心理士による田中ビネー検査では、IQは112でした。検査中や面談中の離席もなく、行動の問題はありませんでしたが、わからない時に、「わからない」が言えずうつむいていました。お母様の話では、聞きなれない言葉には拒否感があり、話そうとしないそうです。医師による5歳児健診診察では、概念理解も年齢相当で知的には問題ないのですが、聞き間違いが多く（特に似た言葉）、聞き返すことも多い印象を持ちました。医療機関でWPPSI知能検査を行うようアドバイスし、その結果は、言語性IQ 93、動作性IQ 135、全IQ 116と言語性と動作性IQに差を認めました。就学後もLDに関するフォローが必要と考え、就学前に市の幼児教育センターを紹介しました。本例は、兄が軽度発達障害を持ち、弟にも軽度発達障害があるのではないかというお母様の不安がベースにありました。幼稚園では、

問題なく過ごしていますが、聞き取り（聴覚認知）に問題がある可能性があり、就学後の学習面でのフォローを要するお子さんと判断しました。就学前に幼児教育センターにつなぎ、言語面の評価と就学への準備をお願いすることができました。就学後、いつでも兄の通院している大学病院に受診できる状況にあります。

【症例9：相談を利用し、高機能自閉症が疑われた例】

①気づきの経過

保育園で、友達とあまり遊べない（ひとり遊びが多く、泥団子作りなどをもくもくとする）ため、保育士が相談を受けたらどうかと保護者に勧めて、4歳5か月時に相談にみえました。相談には、保育士も同伴でみえました。保育園では、自分の世界をもっていて、熱中しているとき人にじゃまされたくないようだという保育士のお話でした。また、語彙数が少ないことも気になる点であることがわかりました。4歳5か月でしたが、5歳児健診の診察方法で、一通り健診をしてみました。会話は、カレー質問（保育園のカレーとお母さんのカレーと、どっちがおいしい）に無頓着に「同じ」と答えました。動作模倣や協調運動も問題なく、指示にも従ってくれました。概念を問う問題は、しりとりができない以外は、じゃんけんの勝敗も理解できていて問題ありませんでした。知的な遅れはありません。

②保護者や保育士へのアドバイス

健診の1対1の場面では、問題が出にくい印象を持ちましたが、保育園でのエピソードからは、高機能自閉症が疑われました。保護者、保育士には、診断までは、まだ至らないが、高機能自閉症の特徴を持ったお子さんのようであり、基本的対応の仕方、すなわち無理やり強制するのではなく、少し待つこと、次に何をするかをわかりやすく絵などで提示すること、素直に従ったときは褒めることなどを伝え、加配保育士を要請しました。高機能自閉症の場合に起こりやすい問題点については、保護者と保育士にお話し、問題が持続する場合、就学前に小学校と相談すべきこと、また医療機関に受診していただくこともお話ししました。数回の継続相談を予定しています。

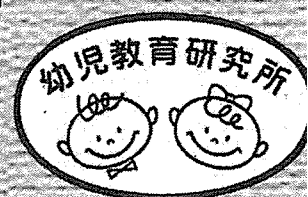
（山下裕史朗）

卷末資料

—サポートフック—

にじいB/ート

なまえ



サポートブック

このノートは先生や保護者の声からうまれたノートです。

子どもが学校で問題や困難に直面したとき、前向きになるように励ます手だてを多く示しています。

クラスや学校全体での配慮、子どもとのコミュニケーションの取り方など、これから多くのことを経験していく子どもたちのために、本人だけでなく周りの人間がどう努力したらいいか考えるきっかけになると思います。

小学校の先生との話し合いの場でこのサポートブックを活用して下さい。

いろいろなサポートの方法が載っていますが、子どもの行動や特徴は常に発達し変化しています。ここに書かれていることが全てではありません。特徴を固定的に考えるのは控えてください。

このようなわけでこのファイルの中身は常に更新が必要です。年に1～2回程度の書き換えや追加を行ってください。

サポートブック使用時の個人情報の保護について

1. サポートブックは、お子様の理解や支援方法についての個人情報のほかに支援者や関係機関に関する情報が多く含まれていますので、使用時はプライバシーに十分配慮して慎重に取り扱ってください。
2. 作成にあたっては、保護者と幼児教育研究所(所長)の同意に基づいて作成し、その責任は作成者である保護者と幼児教育研究所(所長)にあります。関係機関からの情報等、必要に応じて項目を書き足したり減らしたりしていきます。保護者の方の判断で、お子様の不利益になるような項目は削除していただいて結構です。
3. 使用にあたっては、保護者が許可した支援者だけがサポートブックを見ることができます。支援に関わらない第三者に情報を提供すること、また承諾なしにコピーなどをして二次的に使用することは禁止しています。保護者の方の責任で支援者に対しての十分な配慮をお願い致します。

サポートブックは、お子様の支援をスムーズにする為に作り出された非常に便利なものですが、一歩間違えると個人情報が流出するという危険性をはらんでいます。情報の取り扱いにはくれぐれもご注意ください。

ふいかな 男

名前 _____ 女

ニックネーム _____

生年月日 平成 年 月 日生

写真

保護者 _____ 続柄()

_____ 続柄()

住 所 _____

連絡先 自宅 _____

携帯 _____ ()

携帯 _____ ()

幼児教育研究所 電話 35-3812 FAX 35-3886

出身園 () 電話 _____

かかりつけ医 () 電話 _____

療育歴 (有・無)ある人は状況をお書き下さい。

既往症 今までにかかった大きな病気やアレルギーなど

成長のあゆみ

名前 _____

誕生から今までの子どもさんの成長の中で健診、入院、療育、入園、入学など大きな転換点
 となったできごとなど、‘節目’について記入してください。

平成 年 月 日	できごと
平成 年 月 日	病院で出生 体重 _____ グラム 身長 _____ cm
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	

幼児教育研究所ではこんなことをしています。

(通称・幼研)

調査研究

乳幼児保育教育に関する調査研究

研修

保育所職員研修
幼稚園職員研修
幼保小合同研修会

発達支援

相談：乳幼児相談、専門相談、
発達フォロー相談
療育：発達に応じた療育学級
訓練：動作、言語、行動

広報・啓発

子育て講演会
乳幼児を持つ親の勉強会
所報「幼研だより」
啓発誌「にじのかけ橋」

発達支援：療育

年長の子どもさんはバンビ学級に所属しています。

ほとんどの子どもさんは通常は市内の幼稚園や保育園に通っていますが、週に1回保護者と一緒に幼研のバンビ学級に通級してきます。

バンビ学級ではこんな活動をしています。

親子リズム運動

スキンシップを図る運動やリズムなどで親子が肌を触れあう活動を通して情緒の安定をはかります。

- ・体操
- ・あつまり：あいさつ
お名前は？（前に出てマイクに向かい、自分の名前を言います）
手遊び、指遊びなど
- ・親子遊び
- ・おんぶ行進

今日の主な活動

- 子どもの発達を促す活動
導入劇を通してねらい、方法、内容を理解してもらい、親が子どもにかかわりながら親子で活動します。
- ・感覚遊び：新聞紙遊び、水遊び
小麦粉粘土、シャボン玉など
 - ・ごっこ遊び：電車ごっこ、おみせやさん、おにごっこなど
 - ・運動遊び：マット、ボール、平均台
ジャンプ、トンネルなど
 - ・手指の運動遊び：積み木、ドミノ
 - ・認知遊び：型はめ

お話

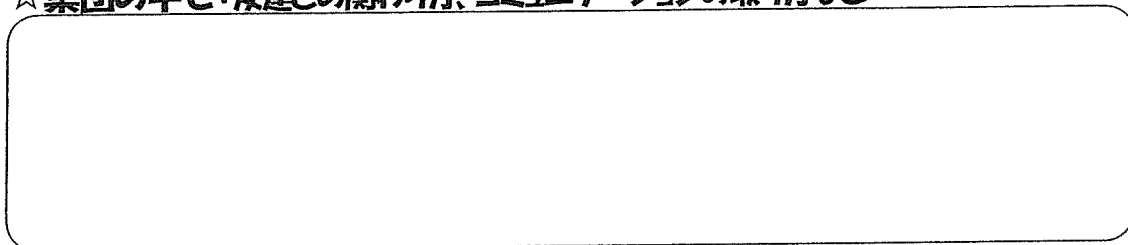
お話を聞いて我が子にあった家庭での実践方法を考えます。

- ・絵本、紙芝居、パネルシアター、指人形など
- ・一口講話（保護者対象）
遊びを振り返り、その意義を理解してもらい家庭での実践に結びつけてもらいます。

幼児教育研究所

()さんの 幼研での療育・訓練の様子

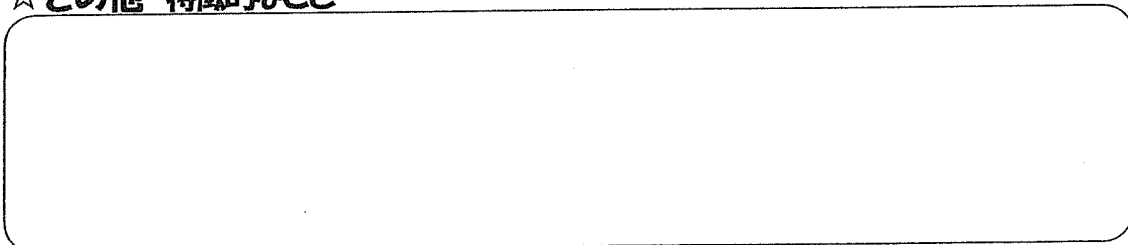
☆集団の中で:友達との関わり方、コミュニケーションの取り方など



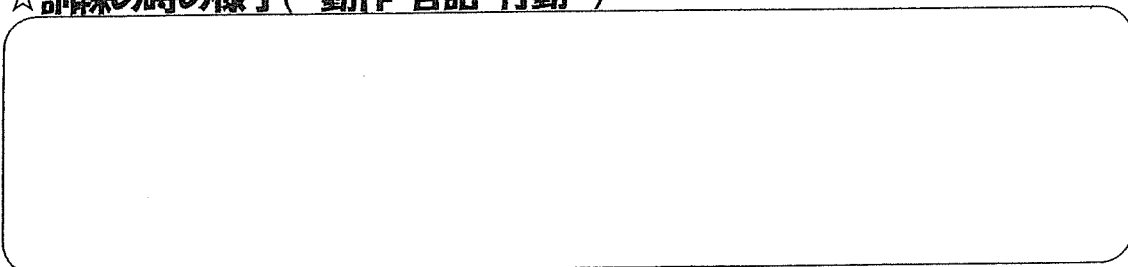
☆子どもの意欲や興味を高めるための有効な支援や声かけ



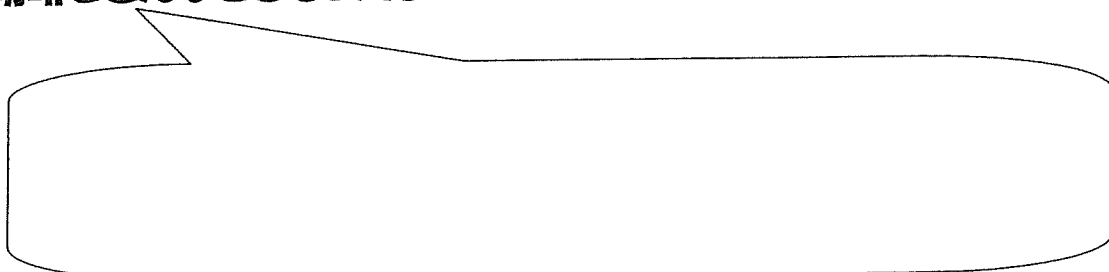
☆その他 特徴的なこと



☆訓練の時の様子(動作・言語・行動)



幼研でこんなこともありました!



幼児教育研究所

() さんの 訓練の時の様子
(動作・言語・行動)

A large, empty rounded rectangular box with a thin black border, intended for recording observations of a child's actions, language, and behavior during training.

☆パニック(有・無)ある人は以下に記入を!

パニックを誘発する可能性のあること・パニックの状況・落ち着くための手立て

☆日常生活

食事:好き嫌い

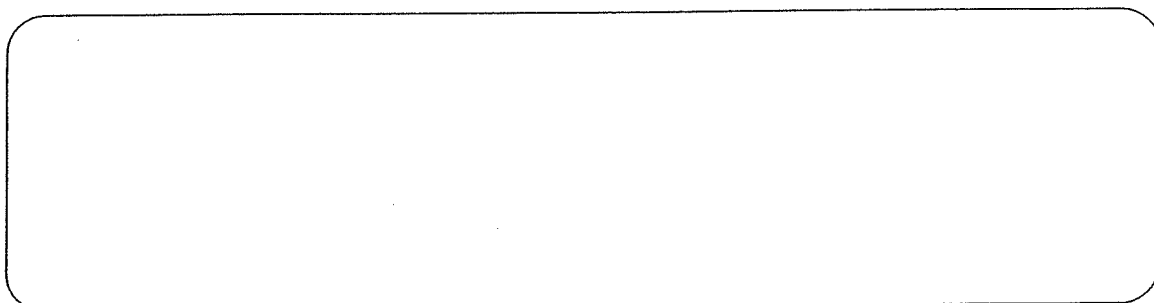
:アレルギーがある場合、食べ方の特徴(スプーンやお箸の握り方や使い方)など

衣服の着脱 (自分でできること、ボタンやファスナーは?)

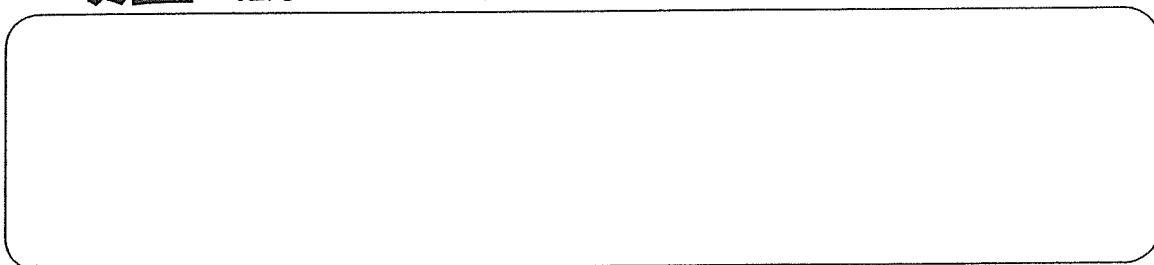
排泄について (例えば、和式か洋式か、大・小での支援の仕方や配慮など)

☆ 自由時間の過ごし方

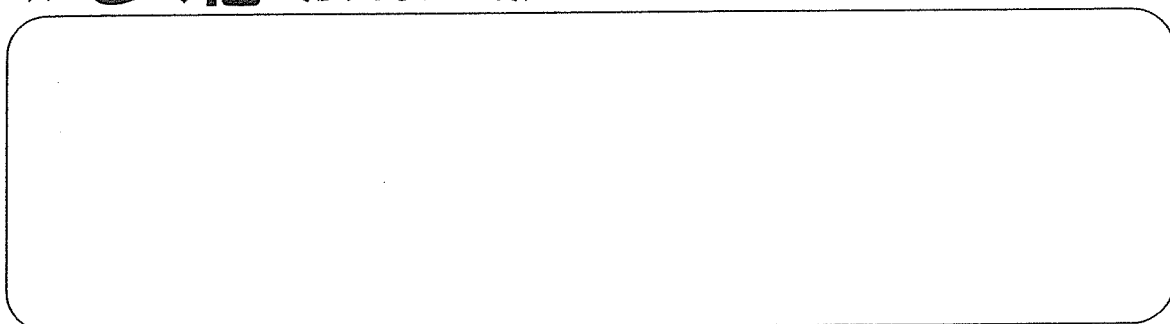
例えば、好きな遊び、集団とのかかわり方、支援の仕方や配慮など



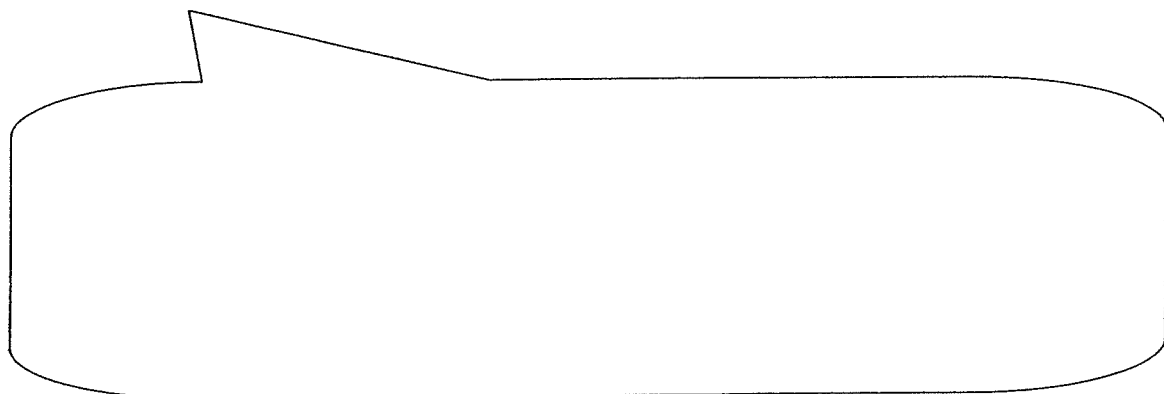
☆ 安全 絶対やめさせて！危ない！命にかかわる！



☆ その他 知っておいて欲しいことなど



こんないいところがあります！



☆フリースペース

なんでも自由に書いてください。

A large, empty rounded rectangular box with a thin black border, intended for free writing or drawing. The box is vertically oriented and occupies most of the page's width and height.

()さんの園での様子

園名 ()

電話 () FAX ()

☆ **集団の中で:** 友だちとのかかわり方、コミュニケーションの取り方など

☆ **生活の中で:** 食事、排泄、着替えなど

☆ **その他特徴的なこと**

興味・関心・こだわり・配慮を要することなど

小学校・中学校等進学先での成長の記録（保護者で記録してください）

小学校・中学校等での成長の様子を記録してください。（エピソード等特記すべき事項）

1年生	平成 年 月 日 _____ 小学校入学 1年__組

本マニュアルを作成するにあたり、研究データ収集や情報の提供などで御協力頂いた方々を以下に記し、深謝申し上げます。

氏名	所属
大谷 恭一	智頭病院小児科
田中 清	田中小児科医院
松田 隆	まつだ小児科医院
中山裕雄	中山小児科内科医院
佐々木博人	久留米市幼児教育研究所
倉住 玲子	久留米保健福祉環境事務所
弓削マリ子	京都府中丹西保健所
大日康史	国立感染症研究所
菅原民枝	国立感染症研究所
岩崎博之	国際医療福祉大学
渡辺浩史	千葉西総合病院小児科
藤田ひとみ	自治医科大学小児科
中島 正幸	聖マリア病院新生児科
杉本 亜実	久留米大学小児科
堀江 秀紀	山口中央児童相談所
荒瀬 久美子	山口中央児童相談所
神田 尚子	総合相談センター「ぶりずむ」
木戸久美子	山口県立大学看護学部
中村 仁志	山口県立大学看護学部
金原 洋治	かねはら小児科医院
山川 宏昭	山口リハビリテーション病院
山川 美香	山口リハビリテーション病院
大谷 美絵	山口リハビリテーション病院
北山 良平	山口リハビリテーション病院
茂木 千絵	山口リハビリテーション病院
小野みさ江	山口県健康福祉部健康増進課
大井真由美	山口県健康福祉部健康増進課
日高はるみ	山口県健康福祉部健康増進課
名越 究	山口県健康福祉部健康増進課
関あゆみ	鳥取大学医学部脳神経小児科